

宮城教育大学附属幼稚園だより

お日さまいっぱい



# ふよう通信

発刊日 平成31年 4月 8日(月) No. 1

〒980-0011 仙台市青葉区上杉6-4-1

宮城教育大学附属幼稚園

TEL/FAX 022-274-1605

URL : <http://fu-youchi.miyakyo-u.ac.jp/>

Email : [info2012@fu-youchi.miyakyo-u.ac.jp](mailto:info2012@fu-youchi.miyakyo-u.ac.jp)

## 進級 おめでとうございます



## —新年度そして新しい時代に向かって—

宮城教育大学附属幼稚園長 木下 英俊

4月1日には新元号「令和」が発表されました。また4月初めは寒い日が続きましたが、ようやく春らしい暖かい日差しに恵まれるようになりました。

附属幼稚園に新しく年少組・年中組に入園した子供たち、進級した子供たち、転入した子供たち合計132名の一人ひとりと、保護者の皆様、ご家族の皆様に心からお祝いを申し上げます。誠におめでとうございます。

さて、本年の人事異動で、園長、教頭、教諭、講師の交代がありました。浅野治志園長、高橋早苗教頭、木野田さやか教諭、奥山美也子講師、早坂順子講師に代わって、木下が園長、そして石田雄一教頭、片平みちる教諭、徂見久美子講師、紺野真由美講師が着任しました。ニューフェイスを含む教職員全員ではりきって新学期に臨みます。どうぞよろしく願いたいします。

私は大学では器械運動(マット、跳び箱、鉄棒運動)の実技と理論、また「スポーツ運動学」という学問分野の講義や演習などを担当しています。後者はスポーツ運動だけでなく広く人間の運動を研究の対象としており、幼児の運動を専門にしている研究仲間もいます。附属幼稚園には広い園庭と多くの遊具がありますが、走り回ったり、跳び乗ったり、ぶら下がったりする動きを子供たちが「楽しく」行うことができる環境になっています。でも、楽しむためにはその前に、環境に、そして友達と「なじめる」ことが大切です。小学校でも跳び箱を目の前にして、怖くて立ちすくんでしまう児童がいます。跳び箱運動を「楽しむ」以前の「なじめない」「嫌な気がする」状態です。

自分の周りの環境や仲間になじむことで、例えば「跳び下りてみてもよい」から「跳び下りたい」という気持ちが子供たちのなかに生まれてきます。そしてうまく跳び下りられると跳び下りるのが楽しくなってきます。「なじむ」から「楽しむ」というプロセスを経ることで子供たちのなかに「運動の知恵」あるいは「身体の知恵」が育っていきます。幼稚園ではそれぞれの発達段階に応じた基本的な動きになじみ、楽しむことが大切だと考えます。

しかし「なじむ」ことを急いだり強要したりすると反対になじめなくなってしまうかもしれません。3歳児、4歳児、5歳児が本年度1学期の附属幼稚園になじめるよう、ゆっくりと、しっかりと教職員で見守り、また子どもに応じた環境設定を工夫していきたいと考えます。

子供たちの成長を、教職員、保護者、ご家族の皆様が共に見守り、育む附属幼稚園でありたいと思います。

保護者、ご家族の皆様のご協力をどうぞよろしく願いたいします。



宮城教育大学附属幼稚園だより

お日さまいっぱい



# ふよう通信

発刊日 平成31年 4月11日(木) No. 1

〒980-0011 仙台市青葉区上杉6-4-1

宮城教育大学附属幼稚園

TEL/FAX 022-274-1605

URL : <http://fu-youchi.miyakyo-u.ac.jp/>

Email : [info2012@fu-youchi.miyakyo-u.ac.jp](mailto:info2012@fu-youchi.miyakyo-u.ac.jp)

## 入園 おめでとうございます



## —新年度そして新しい時代に向かって—

宮城教育大学附属幼稚園長 木下 英俊

4月1日には新元号「令和」が発表されました。また4月初めは寒い日が続きましたが、ようやく春らしい暖かい日差しに恵まれるようになりました。

附属幼稚園に新しく年少組・年中組に入園した子供たち、進級した子供たち、転入した子供たち合計132名の一人ひとりと、保護者の皆様、ご家族の皆様に心からお祝いを申し上げます。誠におめでとうございます。

さて、本年の人事異動で、園長、教頭、教諭、講師の交代がありました。浅野治志園長、高橋早苗教頭、木野田さやか教諭、奥山美也子講師、早坂順子講師に代わって、木下が園長、そして石田雄一教頭、片平みちる教諭、徂見久美子講師、紺野真由美講師が着任しました。ニューフェイスを含む教職員全員ではりきって新学期に臨みます。どうぞよろしく願いたいします。

私は大学では器械運動(マット、跳び箱、鉄棒運動)の実技と理論、また「スポーツ運動学」という学問分野の講義や演習などを担当しています。後者はスポーツ運動だけでなく広く人間の運動を研究の対象としており、幼児の運動を専門にしている研究仲間もいます。附属幼稚園には広い園庭と多くの遊具がありますが、走り回ったり、跳び乗ったり、ぶら下がったりする動きを子供たちが「楽しく」行うことができる環境になっています。でも、楽しむためにはその前に、環境に、そして友達と「なじめる」ことが大切です。小学校でも跳び箱を目の前にして、怖くて立ちすくんでしまう児童がいます。跳び箱運動を「楽しむ」以前の「なじめない」「嫌な気がする」状態です。

自分の周りの環境や仲間になじむことで、例えば「跳び下りてみてもよい」から「跳び下りたい」という気持ちが子供たちのなかに生まれてきます。そしてうまく跳び下りられると跳び下りるのが楽しくなってきます。「なじむ」から「楽しむ」というプロセスを経ることで子供たちのなかに「運動の知恵」あるいは「身体の知恵」が育っていきます。幼稚園ではそれぞれの発達段階に応じた基本的な動きになじみ、楽しむことが大切だと考えます。

しかし「なじむ」ことを急いだり強要したりすると反対になじめなくなってしまうかもしれません。3歳児、4歳児、5歳児が本年度1学期の附属幼稚園になじめるよう、ゆっくりと、しっかりと教職員で見守り、また子どもに応じた環境設定を工夫していきたいと考えます。

子供たちの成長を、教職員、保護者、ご家族の皆様が共に見守り、育む附属幼稚園でありたいと思います。

保護者、ご家族の皆様のご協力をどうぞよろしく願いたいします。

